平成20年度 宮城の発掘調査パネル展

宮城県教育庁文化財保護課

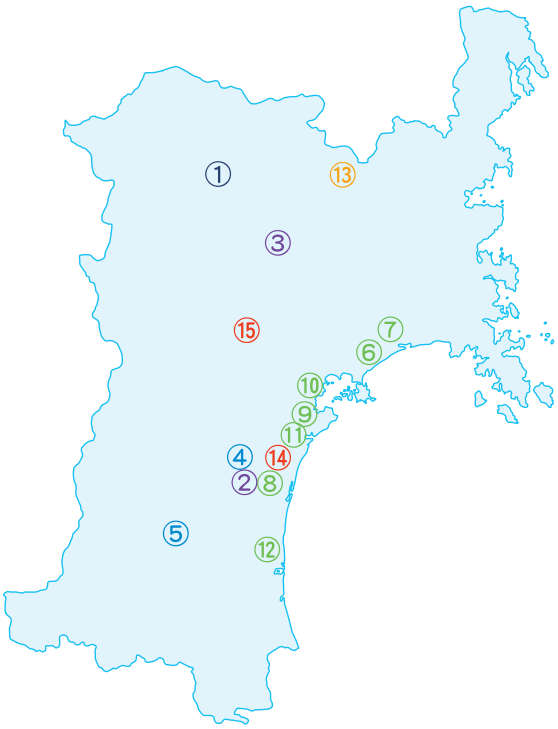
2009年3月30日(月)～4月10日(金)　県庁1階ロビーにて開催

宮城県には、後期旧石器時代から江戸時代まで6,100ケ所余りの遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対してはやむを得ず発掘調査を実施して記録に残すことにしています。

このたび、本年度に行った発掘調査の中で特に話題になった遺跡と遺物をパネルで紹介することにいたしました。この機会に文化財に親しみ、文化財の保護に対してご理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快くご協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



時代	年代	主なできごと	パネルの遺跡
旧石器時代	約700万年前 約50万年前 約3万年前	アフリカで人類が誕生する 北京原人が洞窟で生活する 後期旧石器時代が始まる	①大久保遺跡(栗原市一迫)
縄文時代	約1万2千年前 約5000年前	土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	②下ノ内遺跡(仙台市太白区) ③北小松遺跡(大崎市田尻)
弥生時代	紀元前400頃	東北地方で米作りが始まる 吉野ヶ里遺跡(佐賀県)	
古墳時代	紀元後300頃	豪族が盛んに古墳を造る 雷神山古墳(名取市)、遠見塚古墳(仙台市)	④砂押古墳(仙台市太白区)
飛鳥時代	645	大化の改新	⑤十郎田遺跡(蔵王町) ⑥矢本横穴墓群(東松島市矢本) ⑦赤井遺跡(東松島市矢本) ⑧(仮称)大野田官衙遺跡(仙台市太白区) ⑨特別史跡多賀城跡(多賀城市) ⑩硯沢窯跡(利府町) ⑪市川橋遺跡(多賀城市) ⑫国史跡三十三間堂官衙遺跡(亘理町)
奈良時代	710 724 752 780	平城京(奈良市)に都を移す 多賀城が築かれる 東大寺の大仏が完成する 伊治公呰麻呂の乱が起こる	
平安時代	794 1167	平安京(京都市)に都を移す 平清盛が太政大臣となる	
鎌倉時代	1192 1274•1281	源頼朝が鎌倉幕府を開く 文永・弘安の役(元寇)	
室町時代	1338 1467	足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱がおこる	⑬石森館跡(登米市中田町)
桃山時代	1590 1600	豊臣秀吉が全国を統一する 仙台城の築城が始まる	
江戸時代	1603	徳川家康が江戸幕府を開く	⑭若林城跡(仙台市若林区) ⑮奥州街道・大衡一里塚(大衡村)
明治時代	1868	明治維新	

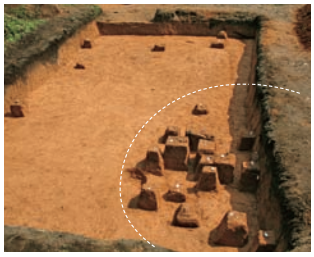
旧石器時代

２つの時期の旧石器

玉髄製の石器(右３点)の方が古く、遺跡内でつくられたものです。新しい珪質頁岩製の石器(左３点)は、完成品として遺跡内に持ち込まれたと考えられます。

①大久保遺跡（栗原市一迫）

後期旧石器時代(約３万～１万２千年前)の石器が出土しました。玉髄製(24点)と珪質頁岩製(４点)の２種類に大きく分けられ、それぞれの石器が使われた時期が異なると考えられます。県内では、２つの時期の旧石器が出土した数少ない遺跡の１つです。



玉髄製の石器はまとまって出土したことから、この場所で石器が作られたことが明らかになりました。

縄文時代

石を敷き並べた住居

180号住居跡では大きな石を平らに敷き、そのすき間に小さな石を詰めています。

②下ノ内遺跡（仙台市太白区）

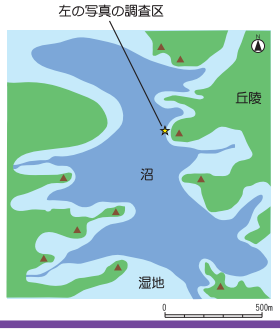
縄文時代中期末（約4,000年前）の集落跡で、竪穴住居跡を７軒発見しました。中には、床の中心部に石を平らに敷き詰めた「敷石住居」が２軒ありました。この時期の集落に特徴的にみられ、他の一般的な住居とは異なる使われ方をしたものと考えられます。

170号住居跡では小さな石を立てて敷き詰め、その周りを大きな石で囲んでいます。

縄文時代　縄文時代の岸辺のくらし

岸辺には多量の縄文土器も捨てられていました(北西から)。

③北小松遺跡（大崎市田尻）



約2,300年前の遺跡周辺のようす
（▲は集落があったと思われる場所）

縄文時代早期末～晩期末（約6,000～2,300年前）の遺跡で、特に晩期末の土器が多量に出土しています。当時の沼地の周りには集落が営まれており、岸辺近くからはシカ・イノシシなどの骨や歯、木の実、骨で作った道具などが見つかりました。これらは集落で暮らしていた人々が捨てたゴミで、岸辺近くのくらしが具体的にわかる資料です。

古墳時代　２つ並んだ埋葬施設

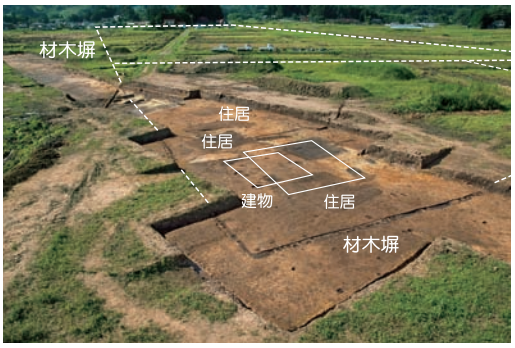
違う種類の２つの埋葬施設が並んだ状態で発見されました(南西から)。

④砂押古墳（仙台市太白区）

５世紀後半～６世紀前半に造られた直径25m、高さ4.5m以上の円墳です。古墳の中央部から、石を積み上げて内部に棺をおさめた「礫槨」と、板状の石を箱型に組み合わせた「箱式石棺」の２つの埋葬施設が見つかりました。前者の方に、より地位の高い人が埋葬されたと考えられています。

礫槨（全長3.2m×幅0.8～1.0m）

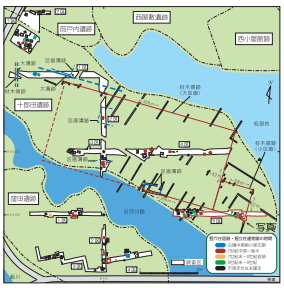
材木塀で囲まれた集落



材木塀の南東隅の様子(南東から)

⑤十郎田遺跡（蔵王町）

推定の高さ３mの材木塀で囲まれた、７世紀中頃～後半の集落跡を発見しました。大きさは東西約308m、南北約142mで、南東側に小さな区画が張り出しています。このような防御施設をもつ集落は開拓を行う移民の村であると考えられており、仙台平野以南では初めての発見となりました。



材木塀の内部とその周辺には住居が多数分布しています。

奈良～平安時代　県内初！「和同開珎」の発見

横穴墓から出土した「和同開珎」(直径３cm)

⑥矢本横穴墓群（東松島市矢本）

崖に横穴を掘って遺体を納めた墓で、全体で200基ほどあると考えられています。このうち11号墓には「和同開珎」が３枚副葬されていました。和銅元年(708)に日本で鋳造された貨幣で、都以外では権力の象徴などを目的として用いられたと考えられています。県内では初めての発見となりました。

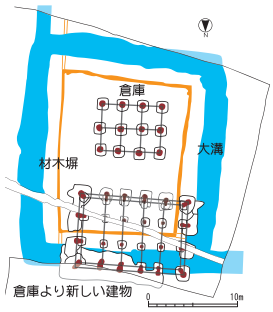
11号墓からは墓に供えられた土器も多数出土しました。

塀と大溝で囲まれた倉庫

奥の建物を塀(東西約14m、南北約17m)と幅約２～2.5mの大溝で囲んでいます(北から)。

⑦赤井遺跡（東松島市矢本）

赤井遺跡は古代牡鹿郡の役所跡と考えられている遺跡です。奈良時代につくられた高床式の倉庫を発見しました。周りを材木塀で囲み、さらにその外側に大溝をめぐらせています。倉庫は厳重に守られていることから特に大事なものが収められていたと考えられます。



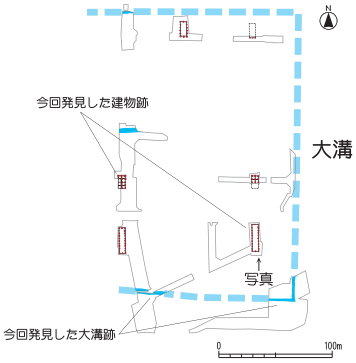
奈良～平安時代

古代の役所跡を発見

発見した大型の建物跡は長さが約23.5mあります(南から)。

⑧(仮称)大野田官衙遺跡(仙台市太白区)

地下鉄富沢駅の東側に広がる、8世紀初頭頃の役所跡で、大型の建物跡や大溝跡を発見しました。以前に見つかっていた建物跡や大溝跡と組み合わせると、東西175m以上、南北約260mの範囲を区画し、内部に大型の建物を規則的に配置していたことが明らかとなりました。



創建時の土木工事が明らかに

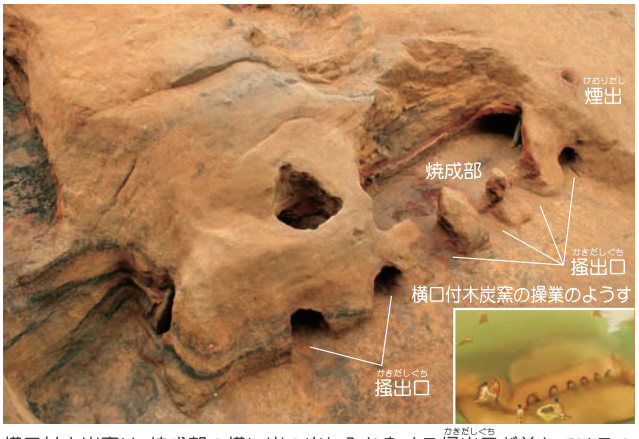
南辺の石垣(石の平らな面が正面になるように積まれています)
※手前にある石は、石垣に使われていた石が崩れたものです。

⑨特別史跡多賀城跡（多賀城市）

創建時(724年)の石垣を発見しました。この石垣は、政庁南前面の平坦面を造ったときのもので、その南側と西側に築かれています。正殿から南へ300尺(約90m)、西へ200尺(約60m)と区切りの良い距離にあり、計画的な造成のようすが明らかとなりました。

城外では、南門から南に延びる南北大路を発見しました(南から)。

県内初の発見！横口付木炭窯



横口付木炭窯は、焼成部の横に炭の出し入れをする掻出口が並んでいるのが特徴です。

⑩硯沢窯跡（利府町）

8世紀前半の木炭窯跡と須恵器窯跡を発見しました。木炭窯には、県内初の発見となった「横口付木炭窯」が2基含まれます。各地の例から木炭は製鉄に使われたと考えられます。南西約5kmにある陸奥国府多賀城にさまざまな製品を供給する生産拠点であったことを示す発見となりました。

上：須恵器窯跡は2基発見されました。

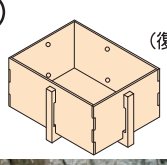
左：窯跡の近くから「宮城」と書かれた須恵器が出土しました。

東日本で初めて櫃が出土

発見した櫃(長さ52cm×幅41cm×高さ26cm)

⑪市川橋遺跡（多賀城市）

陸奥国府多賀城の南に広がる古代の都市遺跡です。平安時代の「櫃」を発見しました。櫃は本来、文書や食器、食料品などを収納した家具です。ヒノキ製で、陸奥国外で作られたと考えられ、多賀城に勤務していた役人が使っていたとみられます。全国で7例目、東日本では初めての出土例となりました。



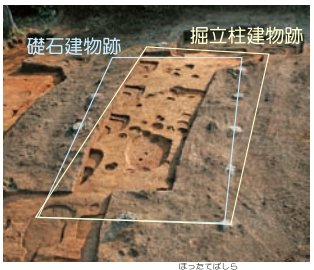
平安時代（9世紀中頃）の井戸枠の一部として転用されていました。

奈良～平安時代　古代の役人の宿泊施設か

通路を挟んで南北に建物が建てられていました（上が南）。

⑫国史跡三十三間堂官衙遺跡（亘理町）

平安時代前半の亘理郡の役所跡です。郡庁院（役所の中心部）の東門から麓へ下りる通路を挟んで南北に建物跡を発見しました。通路の南側には、大型建物を中心として建物が規則的に配置され、これらの周りを板塀が囲んでいます。これらは、役人の宿泊施設である「館」の可能性が考えられます。



「館」の中心建物は、掘立柱建物から礎石建物へと建て替えられています（北から）。

鎌倉～室町時代　金箔を貼った板碑

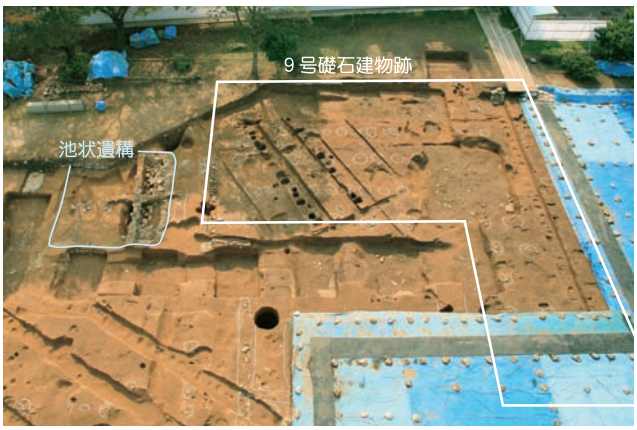
現在に残る水濠と当時の水濠跡（東から）

⑬石森館跡（登米市中田町）

中世から近世の館跡で、中世は石森氏、近世は笠原氏の居館でした。館の周囲にめぐらされた水濠跡から板碑が出土しました。板碑は、鎌倉～室町時代にかけて供養のためなどにたてられたもので、文字に金箔を貼ったものがしばしば見られます。他に五輪塔や中国産の磁器なども見つかっており、当時の武士の信仰や生活の様子をうかがうことのできる発見となりました。

水濠跡から出土した板碑（全長60cm）

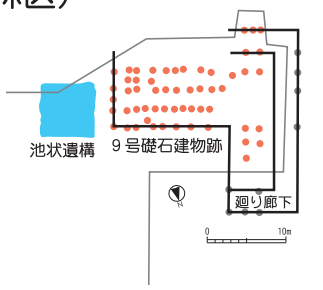
江戸時代　伊達政宗が晩年に暮らした御殿



9号礎石建物跡と池状遺構（北から）

⑭若林城跡（仙台市若林区）

伊達政宗が寛永5年（1628）に造営し、晩年を過ごした城跡です。政宗の没後、城の主要な建物は二代藩主忠宗によって仙台城二の丸に移されました。今回見つかった9号礎石建物跡は、東西約24m、南北約24mの大きさで、これまでに見つかった建物跡のなかでは最大のものです。その形や廻り廊下をもつ構造などから、表御殿の中心建物の一つとみられます。



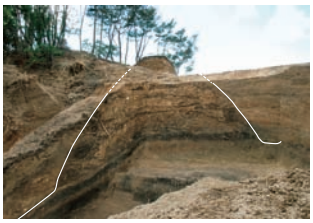
● 今回の調査で確認された柱の位置
● これまでの調査で確認された柱の位置

街道と一里塚の調査

奥州街道は明治時代以降に新しい道路に造り直されたため、残っていたのは一部のみでした（北から）。

⑮奥州街道・大衡一里塚（大衡村）

江戸時代、主要街道の両側には一里（約4km）ごとに塚が造られました。大衡一里塚は、地表では西側の塚だけが確認されていましたが、発掘調査により道路から約2m低い谷部で東側の塚が発見されました。このことから、一里塚は地形に左右されることなく、街道の両側に造られていたことが明らかとなりました。



東側の塚（手前）は直径約8～9mで、高さが約2.3mあります。西側の塚とは約5mの高低差があります。

協力（五十音順）
大衡村教育委員会（奥州街道・大衡一里塚）／栗原市教育委員会（大久保遺跡）／蔵王町教育委員会（十郎田遺跡）／仙台市教育委員会（下ノ内遺跡・砂押古墳・（仮称）大野田官衙遺跡・若林城跡）／東松島市教育委員会（矢本横穴墓群・赤井遺跡）／宮城県多賀城跡調査研究所（多賀城跡）／利府町教育委員会（硯沢窯跡）／亘理町教育委員会（三十三間堂官衙遺跡）

文化財保護課のホームページアドレスは、http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm